

普及活動検討会実施報告書

登米農業改良普及センター

実施月日：令和 8年 1月30日

実施場所：登米合同庁舎

1 検討内容

No	検討項目
1	プロジェクト課題 No.1 「加工用ばれいしょ生産中・長期計画策定と生産体制構築について」 No.2 「農地整備を契機とした地域営農構想の実現について」 No.3 「環境負荷低減型水稻乾田直播栽培技術の確立について」
2	令和8年度普及指導計画の概要
3	新規プロジェクト課題 No.1 「次代を担う若手きゅうり農家のステップアップによる生産性向上」 No.2 「担い手法人の水稻低コスト・省力栽培技術導入による経営安定化」
4	その他

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	2	生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	1
(マスコミ関係者が当日欠席)			

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果 (コメント、評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
プロジェクト課題No.1 加工用ばれいしょ生産中・長期計画策定と生産体制構築について	3.8	1. 戦略的な推進体制の整備と「可視化」による基盤強化 「登米ぼてと組合」の設立以降、生産者と関係機関が連携して中長期計画やロードマップを策定したことを高く評価します。特に、地域版の栽培暦(カレンダー)の作成により作業時期が明確になったことは、生産者の取り組みやすさや目標達成に向けた「見える化」に大きく寄与しています。今後は、地域特性を活かした栽培マニュアルの策定を進め、継続的な高品質・高収量を実現できる指導体制の更なる強化を期待します。	1. 作成済みのマニュアルを年度更新することで最新の知見を反映し、産地の技術水準を底上げしていきます。 今後も重点活動として現場に寄り添い、可視化された目標の達成に向けた指導体制を継続的に強化していきます。

		<p>2. さらなる産地規模の拡大と収益性の向上</p> <p>現在の高い生産意欲を維持しつつ、作付面積の拡大とさらなる増収を目指す段階にあると思います。具体的には、収量の多い生産者の技術を波及させる「底上げ」の取り組みや、規格外品の活用・販売方法の工夫によるロス削減、異常気象でも所得を確保できる仕組みづくりが必要だと思います。また、特定の取引先に依存しすぎず、農協や部会が主体性を持って積極的に活動を推進していくことが、産地の持続的な発展に繋がると思います。</p>	<p>2. 高収量生産者の技術を産地全体へ波及させる「底上げ」を強化し、規格外品の活用や異常気象に対応できる所得確保の仕組みづくりを検討します。</p> <p>農協や部会が主体性を持って産地振興を推進できるよう、普及センターとしては、現場に寄り添った伴走型の支援を継続し、持続可能な産地発展を後押ししていきます。</p>
<p>プロジェクト課題No.2 農地整備を契機とした地域営農構想の実現について</p>	<p>4.1</p>	<p>1. 農地整備を契機とした組織の再編と経営基盤の強化</p> <p>上沼桜場地区において、農地整備の採択を見据えた新規法人の設立支援により、事業面積の約7割を1法人へ集約できることは大きな成果として高く評価します。今後は、長期にわたる工期や大規模化への対応として、法人の経営管理、組織内コミュニケーションの充実に向けた継続的な支援が必要だと思います。3年ごとの成長ステップを計画に盛り込むなど、持続可能な経営体制の確立を期待します。</p> <p>2. 将来像の共有による地域活性化とモデル形成</p> <p>高齢化や担い手不足という課題に対し、地域住民が自らの暮らしや経営に関わる「将来像」を語り合い、環境整備を進める姿勢は評価できる。この丁寧なプロセスは他の地域の模範となるものであり、登米地域全体へ良い影響を与えることと思います。園芸作物の振興を含め、個々の農家の暮らしに寄り添ったきめ細かな普及活動を今後も継続してください。</p>	<p>1. 法人化された担い手に対しては、引き続き経営計画のブラッシュアップや円滑な会社運営を支援するとともに、高収益作物についても更なる作付け拡大に対応できるよう、効率的な生産に向けた支援を継続していきます。</p> <p>2. 同様な課題を抱える他の地域においても、今回の活動成果を活かし、将来の営農構想の実現に向けて支援していきます。</p>
<p>プロジェクト課題No.3 環境負荷低減型水稲乾田直播栽培技術の確立について</p>	<p>4.1</p>	<p>1. スマート農業技術による乾田直播の標準化と安定生産</p> <p>AIや衛星画像、ザルビオ（栽培管理支援システム）等を活用した最新技術により、従来の乾田直播の課題が解消されつつあることを高く評価します。特に、移植栽培と同等の収量を確保できたことは、今後の普及に向けた大きな前進です。今後は、これらの高度な技術を「誰でも取り組める標準的な技術」として確立・普及させ、地域の水稲作付けに不可欠な省力化モデルとして、大規模経営の成功事例を創出することを期待します。</p> <p>2. 環境負荷低減と収益性を両立するブランド化・流通支援</p> <p>技術的な確立が進む一方で、一般農家への普及にはコスト面の課題があると思います。これを解決するため、環境負荷低減型の栽培技術を強みにした「環境保全米」としての認証取得や、付加価値を高めた</p>	<p>1. 「登米地域の環境負荷低減型水稲乾田直播栽培の栽培暦」を作成し、収量・品質の安定と普及を図ってまいります。</p> <p>2. 「環境保全米」としての認証取得や販売戦略の構築には関係機関との連携が必要不可欠だと感じております。引き続き、関係機関と意見交換をしながら進めてまいります。</p>

		販売戦略の構築が必要だと思えます。現在の作付面積（地域全体の約4%）からのさらなる拡大を目指し、研究会の発足や目標設定、販売先との協議を継続することで、経営体として持続可能な「稼げる直播栽培」の実現が今後の課題だと思えます。	
令和8年度普及指導計画について及び新規プロジェクト課題について	4.0	<p>【普及指導計画全般】について</p> <p>1. 計画の整合性と「変革」への期待 地域の現状を的確に反映した課題設定であり、将来に向けたプロジェクトの方向性も明確であると高く評価します。一方で、これまでの計画と比較して「代り映えがしない」ようにも見えるので、既存の枠組みを超えた新たな展開や、一步踏み込んだ変革を感じさせる内容へのブラッシュアップが今後必要だと思う。</p> <p>2. 具体的ビジョンの策定と5か年計画の明確化 今後の農業を支える「担い手」の具体的なイメージをビジョンとして描き、そこに至るまでの5年間のロードマップをより明確に示すべきだと思えます。若手への世代交代だけでなく、農事組合法人における定年層の活躍、非農家からの新規就農など、多様な人材が活躍できる「活動コンセプト」の検討が必要だと思えます。</p> <p>【新規プロジェクト課題】について</p> <p>1. 「地域全体」で動く推進体制の構築 人材育成や生産効率化といった目標を達成するためには、普及センターや農業者だけでなく、地域住民の理解と協力を得た「オール登米」の体制づくりが不可欠です。地域全体を巻き込み、一体となって計画を推進していくための仕組みづくりが重要だと思えます。</p>	<p>1. 今後は将来を見据えた活動はもとより、一步踏み込んだ、一段上の活動を展開できるような計画を作っていきたいと思えます。</p> <p>2. 5年毎に基本計画を見直しますが、ロードマップのような見える化は大切な視点と思えます。今後の計画策定に取り入れるよう検討していきます。また、ご提案のあった、多様な人材が活躍できる「活動コンセプト」についても検討していきます。</p> <p>1. 地域を巻き込む活動・展開は、まさに普及活動の目指すところだと思えます。オール登米という体制づくりを考慮して、今後は計画の策定や実践を心がけていきます。</p>
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・登米地域は畜産に関しても県内一にあたる地域です。畜産に関する課題があってもいいと思う ・作物を作って買って頂く事は、相手があるという事で、人とのつながりは大事です。若い職員の人たちも自分を売る、知ってもらふ事、大事です。また、若手職員がやりがいをもてるために、主体的に活躍できる環境づくりに期待しております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たい肥の利活用の呼びかけなどを重点活動で取り扱っていますが、畜産を課題対象としてはいみませんでした。今後検討していきます。 ・ありがたいご意見です。若手職員の活躍できる環境づくりに努めてまいります。